

だれでもいつでも

ボラ ン テ ィ ア

さいがい お 災害が起きた時のボランティア?

じしん つぶ どしゃくずれ
地震、川のはんらん、大雨が何日間も続いて土砂崩れが
おこる。このようないつもの暮らしとは大きくちがう状況で、
ふだん かんきょう
普段の暮らしができない環境になってしまうのが災害です。

家の中にたくさんの土砂が流れ込んできてしまったり、川の水があふれて家の中まで水が入ってきてしまったりしたら、どんなことが起こるでしょうか?

雨や地震がおさまっても、昨日までの暮らしは
むづか
難しいかもしれません。

そんな時に 1 日でも早く、普段の暮らしに戻れるための
しえん
支援(手助け)をすることが災害が起きた時のボランティア活動です。



発行元:西都市ボランティアセンター

社会福祉法人西都市社会福祉協議会
〒881-0034
西都市妻町1丁目73番地
(西都市生きがい交流広場内)
TEL 0983-32-0910
FAX 0983-32-0909
HP <https://www.saito-shakyo.jp>

スマホで
読み込んで
みてね♪



西都市社協



災害が起きた時に「ひと」と「ひと」をつなぐ場所

「災害ボランティアセンター」。この言葉をテレビや SNS で見たり聞いたりしたことがありますか?

1995年、はんしんあわじだいしんさい
阪神淡路大震災をきっかけとして、2011年、ひがしにほんだいしんさい
東日本大震災でより多くの
人が知る言葉となりました。

「災害が起きて普段の暮らしが難しくなった人(被災者)」と

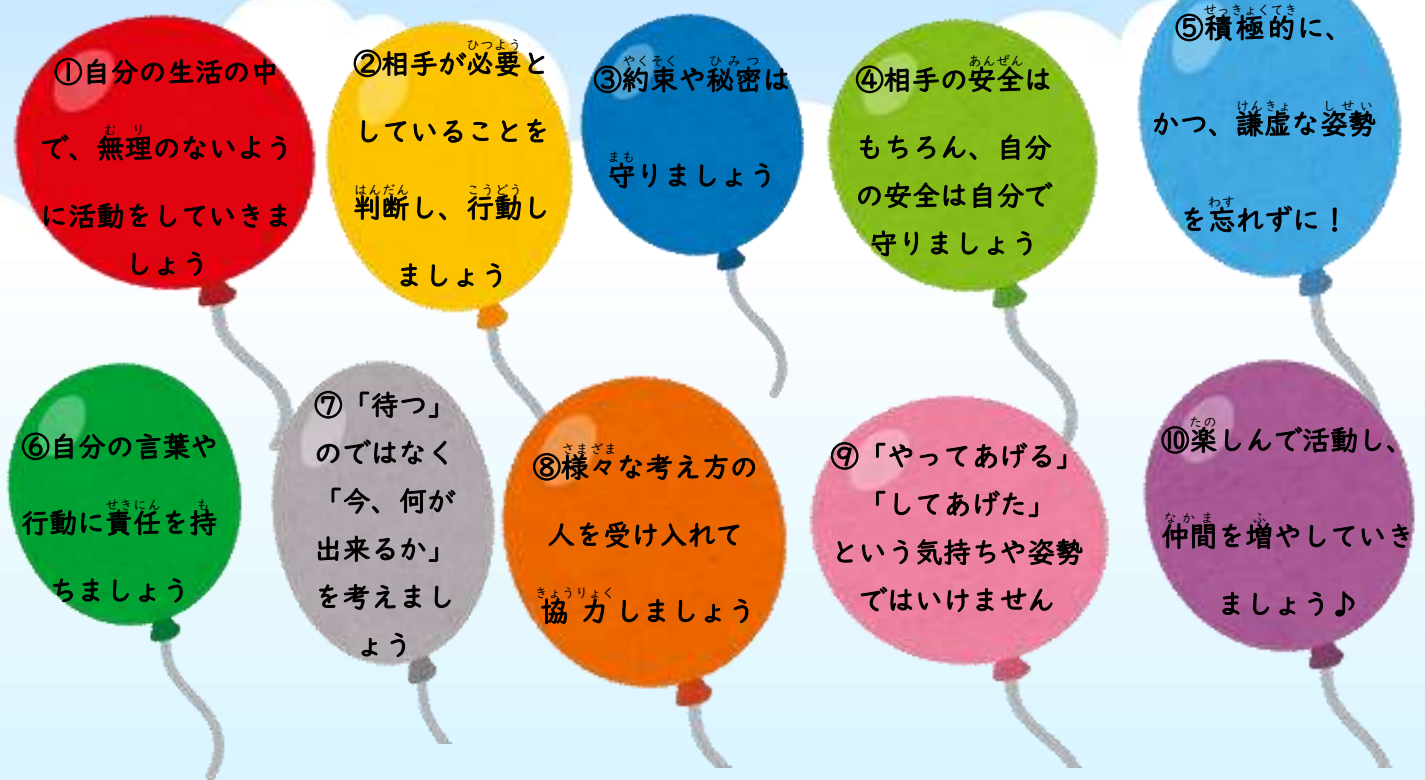
「その人の力になりたい人(支援者)」をつなぐ役割が災害ボランティアセンターです。

災害による被害の大きさに応じて、市外、県外、日本全国から「支援者」が集まってきてくれます。それぞれができることで、被災者をサポートしていきます。しかし、みんながみんな、家から土砂を運びだしたり、水でダメになった家具を運び出したりなど、力仕事ができるわけではありません。力にはなりたいたけど、住んでいるところが遠くて行けないこともあるかもしれません。そんな時には、募金をしたり、被災者が必要な物を送ったりすることで力になりたい気持ちを届けることもできます。

それも立派なボランティア活動です。



ボランティア活動で気をつける10のコト



安心してボランティア活動をするために

ボランティア活動保険に入ることがおすすめです。

ボランティア活動中にケガをしない、させないことが大切ですが、もしもの時に備えて保険に入ることができます。ボランティア活動中にケガをした時の病院で必要なお金が出たり、物を壊してしまった場合の弁償ができたりします。

この保険は何歳でも入ることができるので、ボランティア活動をする時には必ず入るように心がけましょう。この保険に入ることが、自分を守ることと同時に相手への心配りにもなりますね

350円～500円を払うことで1年間保障してくれます。

災害が起きた時に住民を助け出すのは誰なのでしょう? 自衛隊、消防団員、警察官、市役所の人でしょうか。もちろんこれらの人たちも全力で助け出すために動いてくれています。

しかし、すべての住民をこれらの人たちだけで助け出すことは難しいでしょう。1995年の阪神淡路大震災では、近所に住む住民同士が助け合って被害を逃れたと言われていました。

その住民によって救助された人数は全体の8割にもなるそうです。

近所の人と日頃からあいさつや会話をする事は、災害の時に意外な支えになるのかもしれないですね。

先生・PTAの皆さまへ

本会では、小中学生はもちろん、地域の皆さま向けに福祉に関する学習会や福祉体験プログラムがございます。授業の一環やPTA活動の行事等にご依頼いただければ、日程を調整の上おうえがいたします。

※ご依頼内容に応じて新型コロナウイルス感染防止策を講じた支援を検討させていただきます。